

第1回蒲郡市東港地区まちづくり協議会 議事録

開催日時	令和6年3月29日（金）午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	蒲郡市民会館東会議室
出席者	<p><b>【会 長】</b>  ・名古屋工業大学大学院工学研究科教授 秀島 栄三</p> <p><b>【委 員】</b>  ・名古屋大学大学院 工学研究科教授 恒川 和久  ・名城大学 理工学部建築学科教授 生田 京子  ・蒲郡商工会議所 会頭 小澤 素生  ・中部地方整備局 三河港湾事務所長 東野 隆之  ・愛知県東三河建設事務所長 齊藤 保則  ・愛知県三河港務所長代理  三河港務所蒲郡出張所長 鈴木 茂弥  ・愛知県都市・交通局 港湾課長代理  同課港湾企画グループ課長補佐 村山 貴弘  ・愛知県都市・交通局都市基盤部都市計画課長代理  同課土地利用計画グループ課長補佐 大見 明弘  ・蒲郡市建設部長 鈴木 伸尚  ・蒲郡総代会蒲郡町部地区会長 細井 政雄  ・がまごおり市民まちづくりセンター代表 金子 哲三  ・蒲郡市都市計画審議会委員 早川 康子</p> <p><b>【蒲郡市】</b>  蒲郡市長 鈴木 寿明</p> <p><b>【事務局】</b>  ・建設部 東港地区開発推進室室長 藤井 克巳  ・建設部 東港地区開発推進室副主幹 権田 吉宏</p> <p><b>【委託業者】</b>  ・蒲郡東港パートナーズ特別共同企業体 代表 忽那裕樹ほか5名</p>
議 題	1 蒲郡市東港地区まちづくり協議会会長の選出について 2 報告事項 (1) 東港地区マスタープラン検討状況について (2) 今後の予定について
会議資料	・次第 ・委員名簿 ・委員任命書 ・蒲郡市東港地区まちづくり協議会設置要綱 ・蒲郡市東港地区マスタープラン検討資料
会議内容	1 蒲郡市長挨拶 皆様方におかれましては、蒲郡市東港地区まちづくり協議会の委員就任についてご快諾いただきまして誠にありがとうございます。 また、年度末最終日という大変お忙しいところご出席いただきまして重ねて御礼申し上げます。

東港地区のまちづくり事業については、令和2年度に東港地区開発推進室を設置し、翌令和3年8月に東港地区まちづくりビジョンを作成しました。その後、このビジョンの実現に向けて、市民の方々と共に議論を重ね、また、関係行政機関の各担当の方にも相談をさせていただきながら検討を進めている。

今後は、市民や事業者の方をはじめ、様々な方と一緒に、社会実験として、現地の公共空間を実際に使ってみたり、あるいは、事業者と対話を行うことで民間の柔軟で豊富なアイデアやノウハウを取り入れた魅力的な空間整備の可能性を調査しながら、長年に渡り整備が進んでこなかった埋立地を中心に、実現性のある具体的な計画を作り、整備につなげていきたい。こうして整備した空間において、市民や事業者といった民間が中心となり、魅力的なまちの風景が作られる、そんな公民連携のまちづくりに取り組んでいきたい。

そこで今回、この東港地区まちづくり協議会を設置させていただき、みなさまからのご意見やご提言をいただきながら、このまちづくりを確実に進めていきたい。

どうか皆様方のご尽力をお願い申し上げます。

## 2 委員紹介

## 3 事務局より事業説明

## 4 蒲郡市東港地区まちづくり協議会会長の選出について

- ・委員からの提案により秀島委員が互選により会長に選出された。

## 5 会長挨拶

会議が始まる前に海を見に行き、きれいな景色、季節を感じて、蒲郡がさらに好きになった。この魅力を最大限に引き出すように、この協議会で様々な議論・検討が出来ればと思いますので、皆様ご協力をお願いします。

## 6 報告事項【蒲郡市東港地区マスタープラン検討状況について】

### ・事務局説明

会議資料については、港湾法をはじめとする関係法令や、現在、愛知県が改訂を進めている三河港港湾計画との整合についての担保は無く、実現性を伴うものではない。今後、関係行政機関へ相談していきながら検討を進めて、修正等をしていくもの。

## 7 意見

### A委員：

小さなことから始めていくことを含めて魅力的なプランだったと思います。すぐできることと先になるものがある中で、どの部分が先にできそうで、他の部分は何年先になりそうだとかいったロードマップをマスタープランの中で目標として示されないのか。

### 事務局：

来年度から民間事業者のヒアリングを始めていきたい。現時点では、民間投資などが出来そうな時期や公共の予算の見通しが無いので今回は示せていないが重要な事項だと考えている。次の機会に示せるように検討をしていきたい。

A委員：

- ・ 東港地区には再編を進めるものを含んで多くの公共施設がある。説明の中でリーディングプロジェクトが取り上げられているが、その他の施設や市民会館の跡地となる土地もマスタープランの中で位置づける、あるいは、市側に使い方などを投げかけることもあるのではないかと。
- ・ 市民会館や博物館の前面にある堤防はまち側と海側を分断しているように感じる。海側を緑が見える形にするのはよいと思うが、まち側との距離が計画を実現していく上で大事だと感じるがそのあたりどのように考えているか。

事務局：

- ・ 検討すべきと考えている事項を指摘いただいた。堤内地の公共用地、民有地、道路空間の関係性の強化、駐車場のネットワークも含めて検討していきたい。また、行政の投資を呼び水として民間を誘致するなどの事業手法も含めて提案していきたい。
- ・ 堤防の位置は現状のままを前提として、堤防の内側と外側をどのようにしてアクセス性を高めるか、リーディングプロジェクトとの繋がりや交通の結節点を、バリアフリーも含めて考えていきたい。港湾管理者との協議も含めてどこまでできるのか検討し、市街地との連携を高めていく工夫をしたいと考えている。

B委員：

- ・ 商業を呼び込む事業手法について検討されているのは期待するところである。商業計画に対して空間のガイドラインを作るのは重要なことである。同じように植栽についても最初にすべてできるわけではないので植栽計画があるといいのではと感じた。
- ・ 形が見える提案になっているが、どのようなアクティビティが展開されるのか。このエリアに何時間くらい人が滞在するようになっているのか。久屋大通だと3時間いるのがせいぜいであるが、東港にいと一日過ごせるようなことが可能ではないか。お金をかけなくても滞在できることをどのように実現していくのかを表現してほしい。
- ・ 14ページの駐車場の配置が気になる。防潮堤沿いに駐車場を配置するのは理にかなっているが、ここまで駐車場ばかりになると海沿いを歩くしかなくなくなると感じた。堤内地は商業的な土地利用ではないと思うが将来的にこのエリアが活性化した時には堤内地にも何か起きるだろうから市街地側とつなぐようなデザインを考えていただきたい。

事務局：

- ・ 商業とランドスケープ含めたガイドラインは、官民が一体的になれる。例えば「1階部分は開放しましょう」「緑について総合的に関連したデザインにしましょう」などのデザインガイドラインを作っていくたい。
- ・ 駐車場については港湾管理者の考えも含めてどういった配置がいいのか議論が必要。大きな拠点ではなく分散配置の方がよいなどの議論があると思っている。今の絵は指摘いただいたように市街地との連続性を分断するともいえるが、自動車アクセスする量によるところがある。自動車利用からウォークアブルへの移行を実現したいが、駐車場を効率的に配置するのは一つの形だと思っている。また、海上交通の視点としてふ頭用地での駐車場の必要性を考える必要がある。

C委員：

- ・ 蒲郡は温泉のまちといいながら駅を降りて一般的な温泉が無い。市民としてはそういったものを作って欲しい声は多い。県の所有である元蒲郡荘の土地がいいんじゃないかと思う。あの土地の利用は有効ではないか。
- ・ 駅を降りて海が見えるのは非常に魅力的である。海へ向かって堤防の辺りに人を引き込むモニュメントが欲しい。
- ・ ラグーナ行きと大島行きを不定期でもいいので実験をやりながら海で繋いでほしい。

事務局：

- ・ 温浴については、駅前での展開、東港の市民も含めた観光としての展開、ウェルビーイングの視点を含めて検討したい。
- ・ モニュメントは、海まで引き込んでいく、小さなアートが連続するような、歩いて楽しいストーリーを作りたい。
- ・ 竹島ふ頭のターミナル機能を使ってラグーナと大島の就航ができると、そこに行く理由が生まれると考えている。海上交通の社会実験もできるとよいと考えている。また、大島に行く理由も作れると良いと考えている。

D委員：

- ・ 人が多いのはほぼ駅北のエリアでなかなか南側に行くことが無い、以前、アピタ前の歩道で実験した際にも近い場所なのにわざわざそこまで行かない、それを行きたくなる場所にしていこうというのはとてもありがたい。市民の日常が豊かになって欲しい。
- ・ 蒲郡には自転車専用道路が無く、子供が歩道を自転車で通れるつくりになっていない。蒲郡は子どもファーストを掲げているので、このプロジェクトにおいて子どもファーストは何か。小学生たちが日常的に安心安全に遊べると親御さんたちも一緒に遊べる、子育て世代が蒲郡で暮らしたくなるまちにしたい。
- ・ 以前実施された照明の社会実験は素晴らしかった。今後もいろいろな取り組みをして欲しい。
- ・ アシスト自転車で車通りの少ない海沿いの道を通るとラグ

一ナまでは楽にまちを楽しんで行ける。蒲郡の魅力を知っていただけるのではないかと、そういったプロジェクトにしたい。

事務局：

- ・ 自転車はありきたりなモビリティで、新しい物好きな人は電動キックボードなどに行きがちだが、自転車はまちを体に染み込ませることができる乗り物なのでご意見のとおりまちの魅力を体感できるようなアクティビティを盛り込めれば良いのではと考えている。
- ・ 人中心のまちづくりを考えていく一方、自動車が通る港の道路としての管理機能を満たせるように人と自動車が共存できるようにしていければと考えている。
- ・ 子どもファーストの視点で、子供たちを安全安心に遊ばせて少しの時間でも子供たちをリリースして一日のうちゆっくりする時間ができることや、教育的に子供たちが何回も来るイベントなどでここに来る理由が作られるとよい、そういったプログラムを提供する人がいるかどうかといったソフト面も含めて検討していきたい。

D委員：

- ・ 雨の日、暑い夏の日、寒い冬の日、風が強い日があっても遊ばせられるとよい、そう考えると植栽選びも重要になるのではないかと。木陰になるような少し風も和らぐなどを考えて欲しい。

事務局：

- ・ 植栽は、冬はできるだけ日を通して、夏は木陰を作る、防風など樹木の機能を検討したい。イベント時に雨が降っても中止にならず縮小してできるよう、雨をしのぐ場所があるといいと考えている。

E委員：

- ・ 協議会設置要綱で会議は原則公開とあるが、会議資料は公開されるのか。

事務局：

- ・ 会議録と共に会議資料を市のホームページに公開する。

E委員：

- ・ 夢のある内容となっているので、できる限り多くの人とシェアして機運を高めて盛り上げたいと思う。
- ・ 駅北のエリアがレトロを感じる場所だと書かれているが、その反面防災上弱いところがあるため、その観点を入れてもらえるとよい。
- ・ 竹島水族館の土日はかなりの入場者があるため、平日と土日の駐車場のあり方や人の流れを考えるとまちのイメージがしやすいと思う。

F委員：

- ・ データで観光系の資料はあるが、港湾がこのまちでどういった位置づけだったのか、例えば、貨物の取扱量などを市民

の皆さんと共有したほうがよいのではないかと。なぜかという  
とバリアフリーポンツーンをパラリンピックのセーリングの  
拠点として議論して作ってきたが、対岸の物流港の回転半径  
を考慮するとか、航路があることを考えるなど、歴史がある  
ことを言われる。そういった中でポンツーンの長さが決まっ  
ている背景がある。そういったことを考えると蒲郡の港は物  
流港として栄えてきたまちであること配慮しながら、市民の  
皆さんと共有を図りながら考えていかなければいけない。漁  
協関係者の人たちともウィンウィンになるようにしていただ  
きたい。

- ・ 蒲郡は3月から5月末まで潮干狩りシーズンであるため、  
みなとエリアのイベントは控えましょうというのがある。こ  
れには駐車場の問題だけではなく、交通渋滞も関係している。  
そう考えると道路計画の全般的な見直しをする必要があるの  
ではないかと感じている。
- ・ 市民協働という意味では、水産高校のカッター大会をやっ  
ている。ここは全国で一番の適地と言われている。その他ト  
ライアスロン大会など文化としてやっている部分があるため、  
文化をうまく取り入れながらまちづくりをして欲しい。  
大会やイベントをするためのテントを張ることなどができる  
使い勝手の良い柔軟性のある広場の確保も考慮して欲しい。
- ・ バリアフリーポンツーンに国策としての目的があったよう  
に今後予定されているイベントには例えば海洋環境やバリア  
フリーなどといったように、どのようなメッセージで人数を  
増やしていくのかといったまちづくりを考えて欲しい。
- ・ 示されたスポーツパークゾーンにバリアフリーポンツーン  
が外れているのは理由があるのか、パラリンピックなどがあ  
って国の補助をもらって整備した経緯がある。ひと人ヒトヨ  
ットレース（障害の人とヨットレースを楽しむイベント）も  
ありダイバーシティの動きもある。イベントのほかマリンス  
ポーツのゲートウェイとしてのバリアフリーポンツーンがあ  
る。そういったところは考えて欲しい。水域の背景にある文  
化と開発の連携・整合性は大事である。
- ・ 市民のみなさんは色々なイベントで使いたいという話があ  
るが、安全を担保できるまでの場所になっていない。また照  
明が不足するので夕方以降のイベントはできるだけ避けても  
らいたい現状がある。  
これらを踏まえて配慮をして欲しい。
- ・ 愛知丸の新造船の報道があった。水産高校の母港として竹  
島ふ頭がある。愛知丸は災害対策についても考えていくべき  
ではないかという話があるため、竹島ふ頭が災害対策の埠頭  
へと連動してくる可能性がある。
- ・ 水族館が頑張っていることが感謝であるが、多くの来場者  
があり周辺の交通事故などがあるため交通安全対策を考えて  
欲しい。

事務局：

歴史的な背景に配慮した上でより良いものにしていきたい。  
水面利用の背景としての陸地の利用を考えるのは難しい面であるが、ありがたい指摘である。今後もしっかり検討していきたい。

G委員：

水面利用に関係することで竹島埠頭緑地の対岸も含めて賑わいができるとうい。

H委員：

現在、三河港港湾計画の改定作業をしている。蒲郡市では、東港のまちづくりや将来のビジョンを検討されている。そういった意見を反映しながら港湾計画の改定を進めている段階である。蒲郡市と連携しながら実際に実現できるように一緒に検討をしていければと考えている。

G委員：

夜間照明は予算が無くなると消えたままのものが見受けられるが、そうならないようにする良い工夫はあるか。

事務局：

- ・ LED の寿命は5万時間であり（公に発表されている内容）使い方にもよるが、およそ10年間使用できる。一般的に照明柱は20年ほど使われるものなので、10年後に灯体の取り換え、20年後に照明柱そのものの見直しが予想される。そういう意味で保守に関して、積立金を積立てて準備をする方法もある。
- ・ 初期投資は必要だが、全体をコントロールして夜中の消費電力を抑える方法もある。
- ・ 数十万円で年間の保守点検を委託契約して、悪いところは翌年度予算を確保して直す事例がある。
- ・ 蒲郡市では公共施設の照明器具の LED 化事業で10年間のリース契約をとしており、契約期間内に故障した場合は契約相手が直す仕組みを取り入れている。

I委員：

開発を進める中で「みなと緑地PPP」といった制度もできているので活用できるとよい。

災害対応の面では人が集まると帰宅困難者が出てくるため船の活用は有効な手段となりうる。

秀島会長：

事務局は、委員の方々から頂いたご意見を踏まえて、計画検討の作業を進めてください。